

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791100029		
法人名	有限会社 介護サービスやんばる		
事業所名	グループホーム 国頭		
所在地	国頭村字辺野喜26-1		
自己評価作成日	令和4年 1月28日	評価結果市町村受理日	令和4年 6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail/022_kani=true&JigyosyoCd=4791100029-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和4年 2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム国頭は、やんばるの自然に囲まれ旧小学校辺野喜分校を改装して出来たグループホームで、穏やかな時を過ごせる環境にあります。
入居者、地域、職員の三本柱で地域に溶け込み、支え支えられる関係を作り、開かれたホームをめざしています。
また、事業所に看護師を配置し、診療所の医師の協力のもと、日頃の健康管理を含め、緊急な事態にも対応できる体制を取っています。
コロナ禍が改善し次第、以前の状況に暫時戻していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

沖縄県の最北端に位置し、小学校の分校を改装した当事業所は、ヤンバルクイナの鳴き声が聞こえる長閑な環境にあり、「自立支援・生きがいのある暮らし・健康管理・地域との連携」を理念に掲げている。役場の職員による庭の定期清掃活動があり、看護師が中心となって利用者の健康管理に努め、村診療所の医師による訪問診療で、適切な医療が受けられるよう支援に取り組んでいる。渡り廊下を挟んだ大広間には舞台があり、利用者は職員による三線の伴奏やカラオケで好きな歌を歌い楽しんでいる。コロナ禍のため利用者は個別でのドライブで、でいごやオクラレルカの花見やつつじ祭り等に出掛けた帰りに、馴染みの共同売店で買い物をしている。介護支援専門員と看護師の資格を持つ計画作成担当者が、呼吸運動や散歩をリハビリとして位置付け、本人の要望も踏まえて介護計画を作成し、半年毎にモニタリングを行い、利用者の状態変化による随時の見直しを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年5月19日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげ、実践につなげている。	定例会で簡潔な理念になるよう見直しを行い、「自立支援・生きがいのある暮らし・健康管理・地域との連携」を4本柱として、「自らのライフスタイルやこだわりを大切に、生活機能の維持・向上をめざす」支援を心がけ、玄関内に掲示し、勉強会等で振り返り支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めているが、今年も新型コロナウイルスの感染予防施策により交流を中止している。	自治会に加入し、職員が地域の清掃活動に参加している。利用者は、個別に馴染みの共同売店で買い物をしながら店主と会話を楽しんでいる。コロナ感染拡大防止の観点から、面会は15分以内、2人迄となっているため、家族や地域の方からの野菜や果物等の差し入れは預かり、日々の食事に活用したり、利用者のおやつ時間に出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中で地域との交流が極めて難しくなっている。 1)地域の環境整備(11月14日 職員2名参加) 2)行事への相互参加		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。また地域住民の中での介護ニーズについても話合われている。	運営推進会議は定期的に職員のみで開催し、会議では利用者の利用状況や活動状況、ヒヤリハット・事故等について報告し、身体拘束検討委員会の検討内容や外部評価等についても報告をしている。新型コロナウイルス感染対策のため、各委員へ報告書等の送付を行っている。議事録は玄関内にファイルし、閲覧に供している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所は、市町村担当者を運営推進会議に参加していただき、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。村内ケアマネ連絡会にも参加していたが今年は感染予防の観点から実施されていない。	村の担当職員とは、運営推進会議や村ケアマネージャー連絡会で関係構築に努め、福祉課の職員より、定期研修の案内があり、「認知症初期集中チーム会議」に参加している。3回目の新型コロナウイルスワクチン接種についての説明があり、マスクの配布を受けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年5月19日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室のカギはかけていないが、安全維持の観点から、自動ドアを一時的にロックすることがあるが、持続的にロックすることはない。	身体拘束をしないケアについて、入居前に利用者と家族に説明をしている。身体拘束適正化のための指針とマニュアルが作成され、職員は研修会や介護リスクマネジメントと介護事故の防止についての勉強会に参加し、全職員で共有している。2か月に1回運営推進会議を活かした身体拘束等適正化委員会の開催も行なわれている。現在身体拘束は行っていない。身体拘束等適正化委員会の議事録の整備に期待したい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修、定例会での勉強会を設けている。管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止についての指針やマニュアルが整備され、職員は、「高齢者虐待防止について」や「コンプライアンスルール」等の研修に参加している。管理者は、職員の「待って」等利用者が不快になる言葉かけは、使用しないように注意し、不適切な言葉遣いについては、職員間で注意し合うよう心掛けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援できるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。契約時に県、市町村の苦情、意見窓口を説明している。	利用者の意見や要望は、日々のケアの中で聞いて、家族からは面会時や電話等で意見を聞く機会としている。利用者や家族から、金銭管理を利用者自身で行いたいとの要望があり、毎月銀行へ出掛ける支援を行い、4人の利用者が金銭管理を行っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年5月19日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会(定例会等)を設け、反映させている。又、今年度より介護職員の主任を任命し、業務の円滑化を推進している。	管理者は、職員からの意見を定例会や日々のケアの中で聞く機会を設けている。職員は、利用者や家族から「コロナ禍なので面会時間の短縮や人数制限は仕方ないことなので辛抱するしかない。」との会話を聞き、カメラとパソコンを購入して設置し、ズームや携帯電話でのリモート面会ができるよう環境を整備した。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金による労働意欲の改善と就業規定マニュアルの整備を進めている。	法人が作成した就業規則が整備され、給与や有給休暇等の労働条件が規定され、各種資格手当等がある。管理者は、職員からの申し出があった場合には、その都度シフトの変更や有給休暇等の相談に対応している。職員の健康診断(夜勤者は年2回)が行われている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要性を感じているが感染予防の観点から現在行われていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年5月19日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築くため、談話や傾聴、昔の出来事や生活の知恵を出していただけるよう環境を整えてゆく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防の観点から面会制限はあるが、電話やメールのやり取りも行えるようにした。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者は、朝の散歩で、共同売店での飲み物等の購入やヤギ小屋への餌やりに出掛けている。通い慣れた美容室の美容師が、3か月に1回訪れ、利用者の希望するカット等を行っている。友人等への電話での情報交換や家族の動画を見る支援も行っている。利用者は友人や家族と村役場へ選挙の投票に出掛けている。ユーチューブで、辺土名の昔の街並みを見る支援も行っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 4年 5月19日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。コロナが落ち着き次第、行事への招待等も考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント時やケアの中で直接利用者から話を聞き、会話が厳しい利用者からは、家族からの情報や表情、動きなどの反応で思いや意向を汲み取るようにし、職員間で情報を共有している。利用者や家族から、面会制限があるので寂しいとの思いを聞き、生年祝いの写真をスライドショーで見られるよう作成してプレゼントし、お互い好きな時間に写真を見て過ごしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年5月19日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者及び家族から意見を聴取し、介護計画を作成し、半年ごとにモニタリングを実施している。長期目標は1年、短期目標を半年とし、状態変化等で見直しが必要な場合には変更を行っている。庭の草取りや散歩等、民謡教室や映画鑑賞等、利用者の役割ややりたいこと等を介護計画に反映させて支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。例えば、医療機関への付き添いや、医療者との情報交換等。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。今年、ケアマネが認知症キャラバンメイトの登録を行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者は、入居前から地元の診療所の医師をかかりつけ医として継続受診しており、入居後に病院医師の勧めで変更した1名を含め、現在は全利用者が同診療所の月1回の訪問診療を利用している。看護師兼計画作成担当者が、事前に利用者の状況を一覧表にまとめてFAX等で診療所に報告し、訪問診療当日も看護師を中心として職員が対応している。家族等には電話等で受診結果について報告している。利用者は年1回の健康診査等を受けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年5月19日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた方針については、必要時に話し合いの場を設け、家族等に説明している。医療的な環境面や看護師の勤務体制、職員の体制作り等から、看取りが実施できないことを理解してもらい、医療的なケアが必要になった場合は、他の施設や医療機関等への転所・転院が円滑に進められるよう支援している。重度化や終末期に向けた指針の見直しが提案されたままになっている。	重度化した場合や終末期に向けた方針については、利用開始時に利用者や家族に指針をもとに説明することが求められることから、事業所の実状に沿った指針を職員全体で検討し、整備することが求められる。
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。又、院内研修も行っている。	急変や事故発生時の対応については、「緊急対応チャート」や「介護事故発生時及び緊急時対応マニュアル」を整備し、職員で共有している。職員はマニュアルの読み合わせ等で初期対応や応急手当を学習し、AEDや吸引器の設置について定例会で話し合い、購入を法人に要望している。「介護リスクマネジメントと介護事故防止」等の新資料を整備しているが、事故発生時・後の対応等について職員に周知するとともに、事故報告書の様式の見直し、応急手当や初期対応等の具体的な訓練の実施にも期待したい。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災設備関連については、立ち入り検査後の指摘事項を踏まえて改善しているが、避難訓練は未実施である。調査日の翌週に昼間想定訓練を予定しており、消防署への届出書や実施計画書が確認できた。備蓄は、レトルト食品が主で、点検や補充をしているが、飲料水や米等が十分ではなく、備蓄リストも作成されていない。生活用水や自家発電機等を備え、地域高齢者の非常時の受け入れを行っている。業務継続計画の作成、感染症の予防やまん延防止の取り組みはこれからとしているが、感染症対応マニュアルを整備し、「防護服の体験」の研修を実施している。	あらゆる災害を想定した定期的な避難訓練の実施が消防法で定められており、利用者の安全な避難誘導のためにも、昼夜想定年2回以上の訓練の実施が望まれる。利用者と職員、非常時の受け入れ高齢者の分も含めた3日以上以上の備蓄も望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 4年 5月19日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの 人格 の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いを慎重に行っている。	職員は、利用者の希望に添い、1人ひとりのペースに合わせて日々の暮らしを支援し、特に声かけの際は視線を合わせて話しかけるよう努めている。利用者の出身地の話や孫の高校合格の話等、利用者との話題を共有し、1人ひとりの誕生会にはケーキを準備して祝っている。「カジマヤー祝い」を企画して家族を招き、その後親族によるアルバム作成につながり、本人や家族、親族に喜ばれた事例がある。個人情報保護方針や利用目的については利用開始時に説明し、同意書を取っている。方針と利用目的は掲示しているが、写真や画像の使用についても利用目的に追加することに期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めているが、現在はコロナ禍の為、訪問美容を主に行っている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、毎食のお汁とご飯を職員が作り、副食はチルド真空パックの調理済み食材を温め、盛り付けをして提供している。利用者は野菜の下ごしらえや味見、下膳、おやつの手作りケーキ作り等に参加し、行事の際のちらし寿司やぜんざい作りにも参加している。差し入れの野菜や果物、ケーキ等も活用している。朝食に利用者が希望するパンを提供し、クリスマス・忘年会等には折り詰めの特別食を出している。職員1名が利用者と同じ食事を一緒に摂っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年5月19日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔ケアを行い、必要により歯科受診を行っている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄について、日中は全利用者がトイレで排泄し、プライバシーに配慮した支援をしている。利用者の排泄状況は、所定の記録簿やホワイトボード等に昼夜の時間帯で工夫して記録し、その日の排泄状況を確認してトイレ案内を行っている。夜間はポータブルトイレを使用する利用者もあり、尿パットを工夫し、睡眠のリズムに合わせて支援している。手すりを使った歩行訓練や足の裏マッサージ等で、排泄の自立や失敗の減少に繋がられるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しむまでとは行かないが、最低、週に二回の確保と本人の希望があれば入浴ができる体制を柔軟に取っている。	入浴は週3回、同性介助を基本として支援している。職員勤務表には毎日、「女性入浴介助者」や「男性入浴介助者」が指定され、1年間担当を固定して個別支援を実施している利用者もいる。入浴順番にこだわる利用者や着替えを自分で選んだり、職員と一緒に選ぶ利用者、好きなシャンプーやリンスを愛用する利用者等に対応している。利用者は職員と故郷の話等をしながら入浴している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年5月19日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者1人ひとりの薬の内容や服薬状況について、職員は理解と共有に努め、薬の変更は申し送り等で確認し、看護師を中心に「薬の変更後の介助について」の学習会を実施している。薬の設定(配薬)チェック表は日々記録されているが、利用者1人ひとりの服薬チェック表(記入欄)は確認できなかった。複数回の誤薬が発生しており、発生時は看護師に連絡して適切な対応に努めているが、再発防止のための検討会議は実施されず、定例会等で話し合っている。「服薬介助マニュアル」を整備しているが、具体的な手順・支援内容等は記されていない。	誤薬予防のために、服薬支援内容の再確認や服薬状況記録表の工夫が望まれる。さらに安心・安全な服薬支援のため、誤薬発生後の再発防止の検討会議の実施、議事録の整備、職員への周知徹底、及びマニュアルの見直し等が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気分らしの支援をしている。ふるさと訪問ドライブ等。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者は、朝の敷地内散歩や区内の散歩、共同売店や毎週1回の移動販売車での買物等に出かけ、週1回のヤクルトの区内での訪問販売も利用している。コロナ禍は、時期や状況により散歩や買物を控えているが、ウッドデッキでの外気浴や中庭での日光浴、歌会等を継続し、気分転換をしている。車いすの方も含め全員が外出可能で、近隣の辺戸岬や奥へのドライブ、隣村へのドライブを支援し、桜やコスモス、つつじ等いろいろな花見を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和4年5月19日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	/	
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	正面玄関にはスロープと階段があり、玄関の右手側に食堂兼居間、台所が配置されている。居間のテーブルには庭の花や観葉植物を飾り、急須セット等が置かれ、お茶や水が自由に飲めるよう配慮されている。利用者はコップ並べや塗り絵、カルタ等の活動をし、2か所のソファコーナーや畳間でも寛げるようになっている。行事やカラオケ、ライブ演奏等ができる娛樂室兼地域交流室が居間とスロープでつながっており、活用している。ウッドデッキには椅子が5~6脚置かれ、利用者の談笑の場となり、緑豊かな中庭は、合唱や散歩等、季節を感じながら外気浴ができる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	/	
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室には、ベッドやエアコン、タンス、吊り戸棚、温湿度計、カレンダー等が設置されている。利用者は、収納ケースや寝具、時計、掲示用コルクボード、ウォールポケット等を持ち込み、各々居心地のいい部屋づくりをしている。家族写真や自作の額入り塗り絵、壁掛け小物をたくさん飾っている部屋、ぬいぐるみや蠟たきを置いている部屋もある。ナースコールは9室中4室に設置しているが、全居室への設置に期待したい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	/	